





「国際派日本人養成講座」

地球史探訪 平和と環境保全の モデル社会—江戸

「国際派日本人養成講座」(http://www2s.biglobe.ne.jp/~nippon/jogindex.htm)では、毎週、新しいコラムが紹介されています。

※これを読めば自然に、日本の文化や歴史に関心ももてるような話を毎週掲載しています。より多くの二世の方や日本語学習者に読んでもらい、少しでも日本に興味を持ってもらえるよう、最寄りの日本語学校や日系団体の掲示板に張ったり、普段は邦字紙を読んでいない兄弟や子や孫などに記事を紹介してください。(ニッケイ新聞編集部)

1. 過酷な近代世界システム

21の世紀を脅かす大危機は、核兵器と地球環境危機である。これに対し、250年間の平和を維持し、環境保全にも成功した社会が、今、注目を集めている。日本の江戸時代である。

3. ヨーロッパより進んでいた技術革新

近代世界システムとの最初の遭遇の時から、日本人は驚くべき適応能力を示した。1543年に種子島に最初の鉄砲が伝えられてから一年とたぬうちに、日本人はその製造技術を修得し、十年もすると日本中の鉄砲鍛冶が大量に生産を始めた。

5. 高度のリサイクル社会建設へ

鉄砲を捨てた日本人は鎮国の中で停滞に甘んじてはいなかった。閉ざれた国土を最大限に生かした高度のリサイクル社会の建設に乗り出したのである。

2. 近代世界システムへの日本の反応

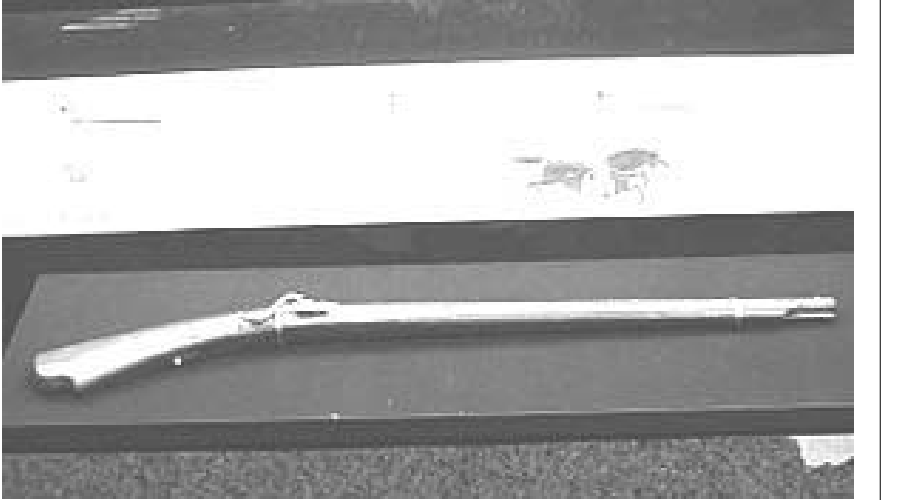
これに対して、日本は世界システムに対して、独特な反応を示した。入江教授は、日本は、戦国時代と明治以降の2度、近代世界システムと遭遇しており、その2回が以下のように相似形をなしている、と説く。

4. 銃を捨てた日本人

しかし興味深いのは、軍事先進国となった日本が、ヨーロッパ勢力を追い出し、朝鮮の役に失敗すると、突如鎮国し、近代世界システムから「降りて」しまった事だ。

6. 世界は江戸化する

江戸時代の日本は、北の蝦夷地から、南の琉球列島まで、どんなに早い足で飛脚を飛ばしても、14日間を必要とした。ところがいまやジェット機で飛べば、地球の真逆まで半日しかかからない。



種子島火縄銃

全員参加の学力テスト 理想と現実に落差 「活用力」向上に躍起

【共同】4年ぶりに全員参加となった全国学力テスト。2007年の実施以来、文部科学省が躍起になるのは、知識の活用を見ざるは、世界に通ずる人材を育てる力に、理解し、考える力が不可欠との考えがある。

Table with NHK logo and program schedule for 28日(日).

Table with NHK logo and program schedule for 29日(月).

Table with NHK logo and program schedule for 30日(火).









